

IV. 実施内容

実施内容のスケジュール

本事業は、下記のスケジュールで実施した。
本実証実験では、「**不登校状態にある学齢期の中学生**」が**実際に夜間中学を利用する事例の支援**を通して、主に2つのポイントを検証した。



実証ポイント／時期	環境整備期	受け入れ準備期	受け入れ開始期	受け入れ安定期	振り返り期
1. 協働体制	1 - 1	1 - 2	1 - 3	1 - 4	1 - 5
2. 支援モデル		2 - 1	2 - 2	2 - 3	2 - 4

1. 不登校生徒を受け入れに必要なステークホルダーとの協働体制について明らかにする
2. 不登校生徒に対し、支援計画コーディネーターを中心とした支援モデルの構築について明らかにする

支援対象者の属性

- ・ 中学2年生男子： **10月利用開始**
- ・ 中学2年生男子： **11月利用開始**
- ・ 中学3年生女子： **1月利用開始**

その他

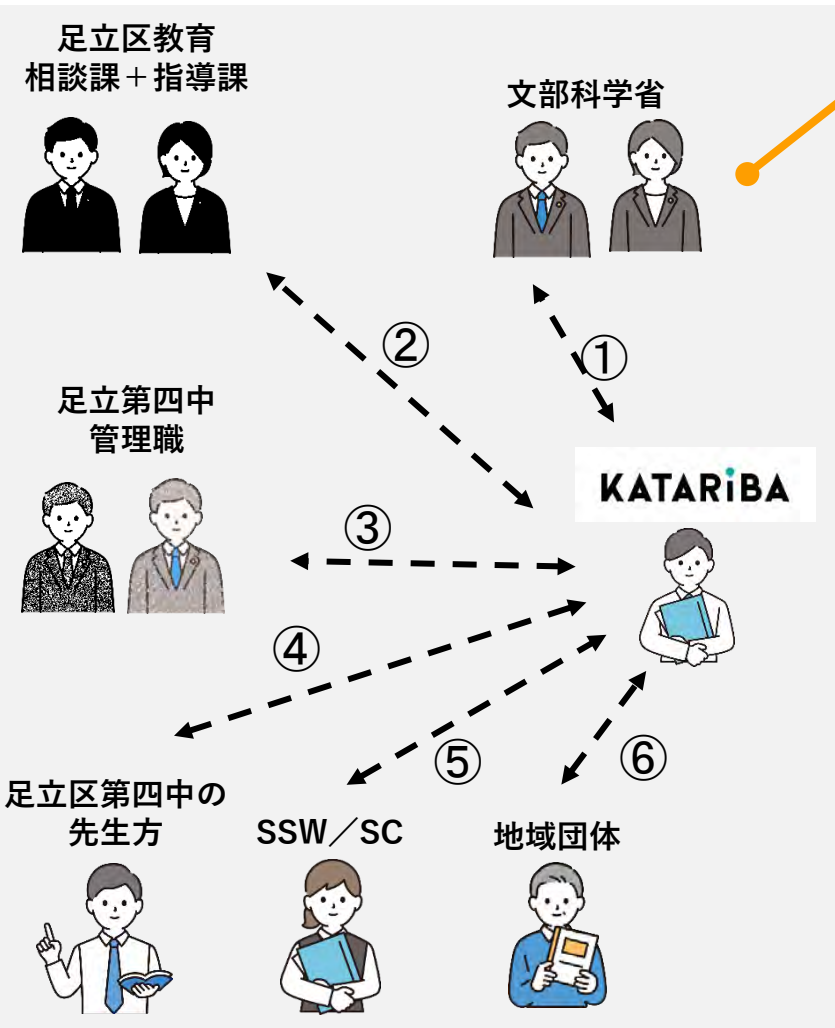
支援対象者は 在籍校に籍を置いたまま、実証実験の一環として協力校（在籍校とは別の中学校）である夜間中学から授業受講の承諾をいただいた。

なお、夜間中学の授業参加が出席扱いとして認められるよう在籍校と教育委員会に要請した。

<実証ポイント 1>

不登校生徒を受け入れに必要な
ステークホルダーとの協働体制について明らかにする

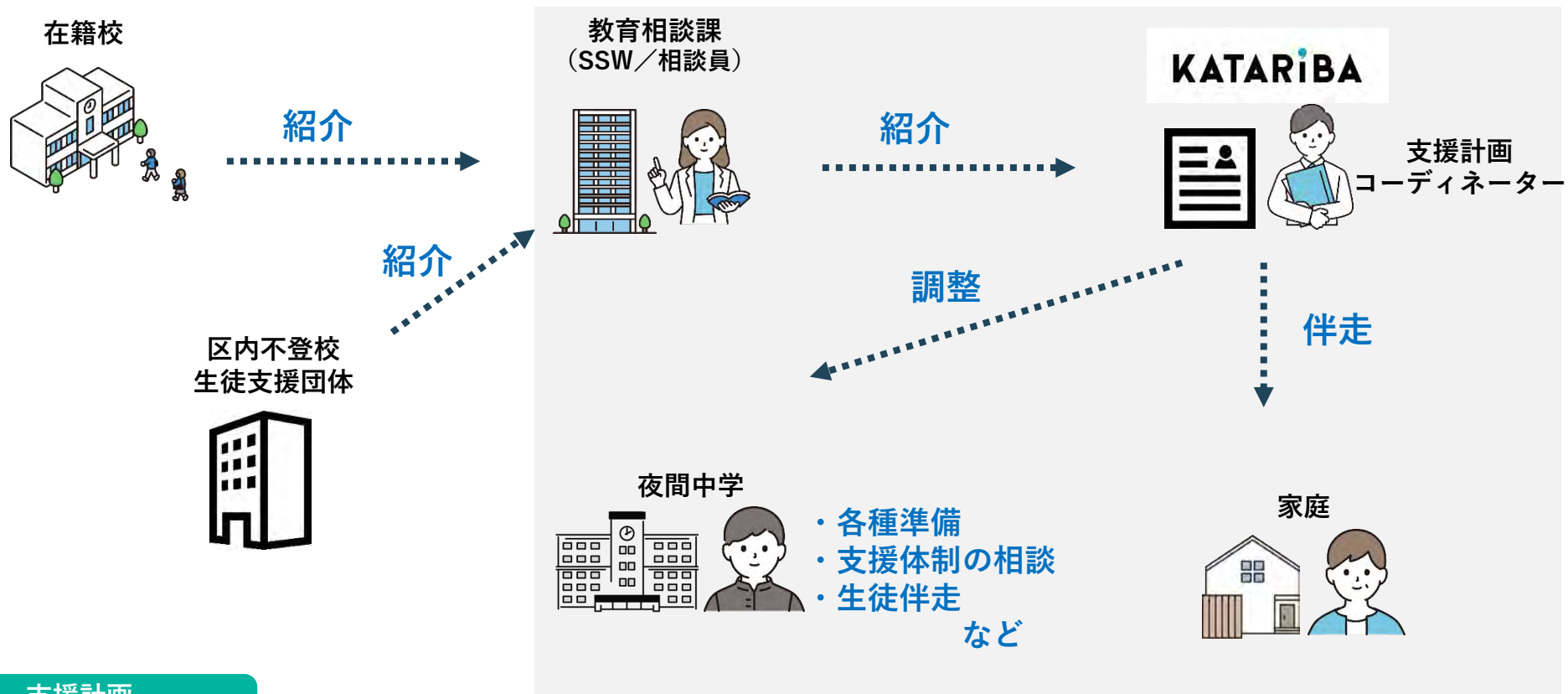
実施環境を整備するため、事業責任者が各種ステークホルダーと打ち合わせを行い、受け入れ先となる協力校・関係者に、事業の説明を行い協力を要請した。また、夜間中学に関する文献調査や参考事例となる自治体等について情報収集に努め、支援フローの設計、改善を行った。



①②③での打ち合わせから登録までのおおよそのフロー詳細 (p.22) 各種ステークホルダーとの打ち合わせと目的

- ① 文部科学省：事業の目的等の確認
- ② 足立区教育委員会：事業開始に向けた相談
(教育相談課、教育指導課)
- ③ 足立区第四中学校の管理職：事業協力の相談
(教育委員会教育相談課同伴)
- ④ 足立区第四中学校の先生方：事業説明
- ⑤ 教育相談課SSW/SC/相談員：事業内容の共有
- ⑥ 区内支援団体：事業内容共有と協力依頼

登録から支援までの イメージ概略図



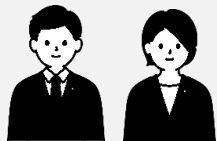
支援計画 コーディネーターの役割

保護者や子どもとの面談を経て、一人一人の個別支援計画・学習計画を作成。心理師である専門スタッフが、コーディネーターとして保護者や教員と情報共有をしながら、生徒の心の回復や学習習慣づくり等を目的とした支援をリードする。

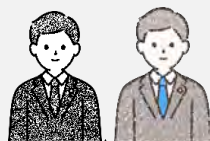
支援対象者が決定したのちは、支援計画コーディネーターを中心とする支援体制を構築した。受け入れ開始期も**先生方の疑問を解消**することで良い支援が促進された。

1-2：受け入れ準備期

足立区教育委員会
相談課+指導課



足立第四中
管理職



- 生徒の報告
- 在籍校への連絡依頼

- 生徒の受け入れ相談
- 各種日程等調整
 - 時間、日にち
 - 準備物など

KATARiBA
支援計画
コーディネーター



1-3：受け入れ開始期

足立第四中
副校長



足立第四中
先生方



支援計画シート参照
(p.24)

足立第四中
栄養士



- 生徒情報や特徴の共有
 - 発達特性や行動面
 - 学習面や生活面
- 授業内容の確認
 - 要配慮事項など

- 給食全般の相談
 - 開始時期
 - 費用関連
 - アレルギー対応
 - 提供ルール

保護者・生徒



KATARiBA
支援計画
コーディネーター



定期
連絡

支援計画シート

個人情報のため非公表

【コミュニケーション面について】

【生活面について】

個人情報のため非公表

【今後目指したい支援の方向性について】

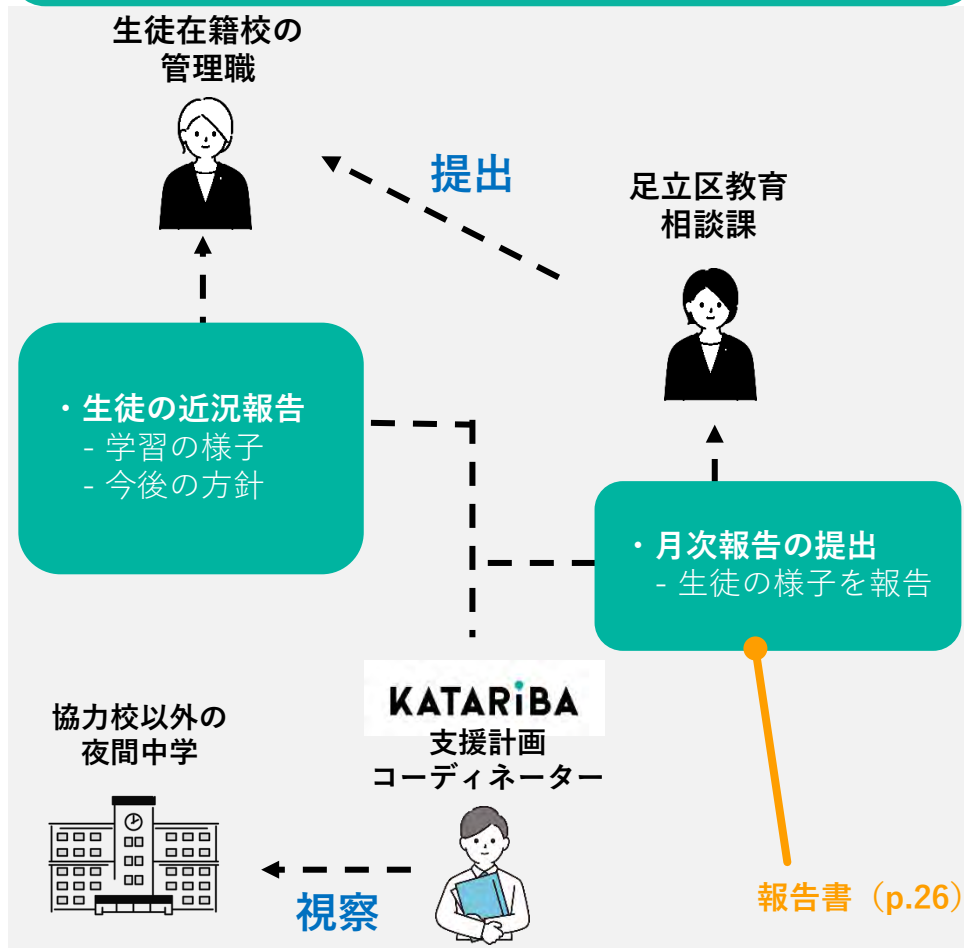
【学習面について】

個人情報のため非公表

個人情報のため非公表

受け入れ安定期には、区の教育相談課を通じて支援対象者の在籍校への報告を行う。在籍校が生徒の夜間中学での学びを適切に知ることで、相互の信頼につながる。また、**他の夜間中学の視察や関係者へのヒアリングを重ね、本事業に関する意見交換**を行った。振り返り期には事業周知を図るため協力校の管理職と広報活動の調整を行った。

1-4：受け入れ安定期



1-5：振り返り期



区の教育相談課を通じて支援対象者の在籍校への報告を行い、在籍校は夜間中学での学びを適切に知り信頼につながる。夜間中学の授業参加が**出席扱いとして認められるよう在籍校と教育委員会に事前に要請**し、結果として支援対象者3名のうち2名は出席扱いとなっている。

令和四年度		支援状況報告書			事業責任者印
No. 1		文部科学省：夜間中学設置促進・充実事業			
中学校	学年				
月	来所回数	来所日	事業での様子	記入者	
個人情報のため非公表					

報告の観点

- ・ 来所回数
- ・ 来所日
- ・ 夜間中学での様子

など

<実証ポイント 2>

不登校生徒に対し、支援計画コーディネーターを中心とした
支援モデルの構築について明らかにする

本実証実験では、不登校状態の支援対象者が実際に夜間中学の授業に参加するための支援の中核に支援計画コーディネーターを据えている。支援計画コーディネーターは事前に保護者および生徒に丁寧に説明し、通学や授業準備をサポートする。

2-1：受け入れ準備期

保護者・生徒



- 事業説明
 - 事業内容や詳細
- 保護者、本人の承諾
- 支援の方向性のすり合わせ
- 懸念点等の払拭

KATARiBA
支援計画
コーディネーター



2-2：受け入れ開始期

保護者・生徒



- 授業内容の共有
 - 教科
 - 必要な持ち物
 - 授業時間
- 日時の確認
 - 待ち合わせ時間など
- アンケート取得

生徒受け入れは見学から始まり、登校は週1日1コマ参加からスタート

授業内での伴走想定
(p.29)

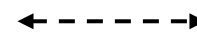
KATARiBA
支援計画
コーディネーター



足立第四中
副校長



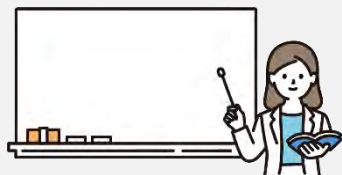
足立第四中
先生方



- ・ 情報共有
- ・ 進捗確認

支援計画コーディネーターは、事前に協力校の先生方と協議の上、教室内でも支援対象者に同席し、授業に伴走する。支援対象者は教科によって得意不得意の差が大きいため、**自立した学習ができるよう必要に応じて支援の質・量を調整**する。

夜間中学先生



生徒



生徒



生徒



学齢生徒



伴走



※先生への確認のうえ、
必要に応じて伴走

支援計画
コーディネーター

伴走について

- ・集中していない生徒への声かけ
- ・先生の指示理解の確認
- ・授業内容の確認サポート
- ・問題を解く際のサポート
- ・授業準備のサポート

など

■TA方式（※Teaching Assistant）

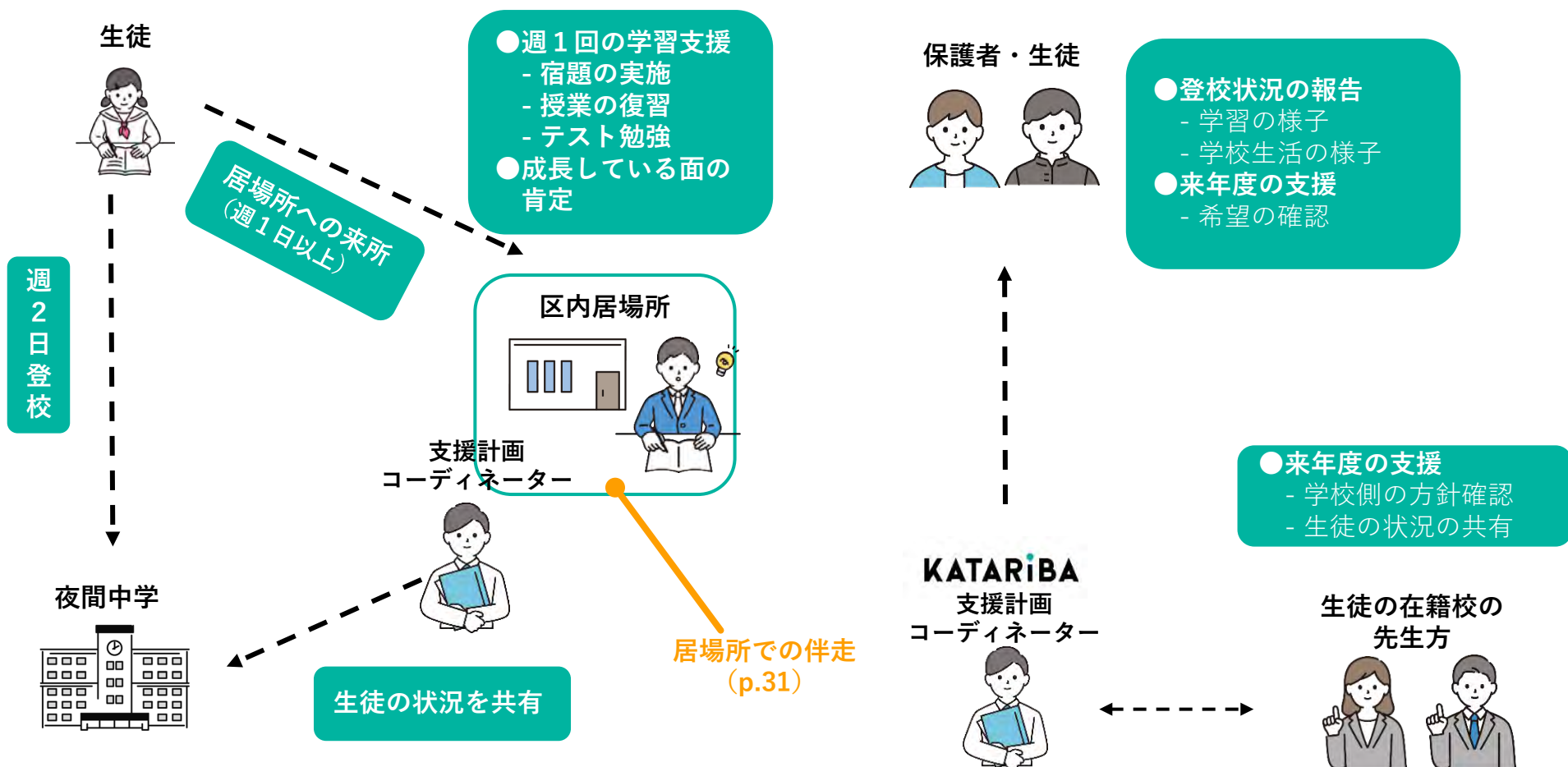
- ・学齢生徒が夜間中のクラスに参加
- ・担当の先生と協議のうえ、生徒の対応方針は決定

※大学等で使用される言葉ですが、カタリバ職員は教員ではないためアシスタントと記載

安定期になり、支援対象者が従来利用していた区内の居場所施設と夜間中学での支援を併用するなか、居場所施設は夜間中学の宿題やテスト勉強等に伴走し、現状を称賛して心理面での支えとなる役割を担った。振り返り期には支援対象者の今後に向けた支援の方向性などを保護者や関係者で協議した。

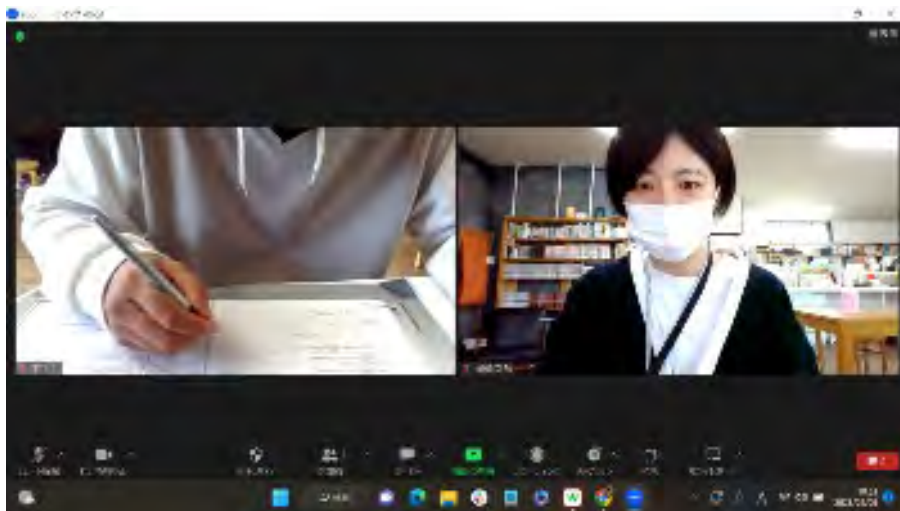
2-3：受け入れ安定期

2-4：振り返り期（2月～3月）



安定期以降は、夜間中学の授業に週1日～2日参加する登校のリズムができてくる一方で、支援対象者が授業内容についていけなくなったり、学校生活を送る上でのルールに戸惑ったりする場面が散見されるようになった。そこで、支援計画コーディネーターが**区内居場所施設における学習機会を設ける**とともに、面談を通して**授業外の時間の困りごとを適宜解決し、関係機関が連携して登校の継続をサポートした。**

オンラインや対面支援による学習支援や面談

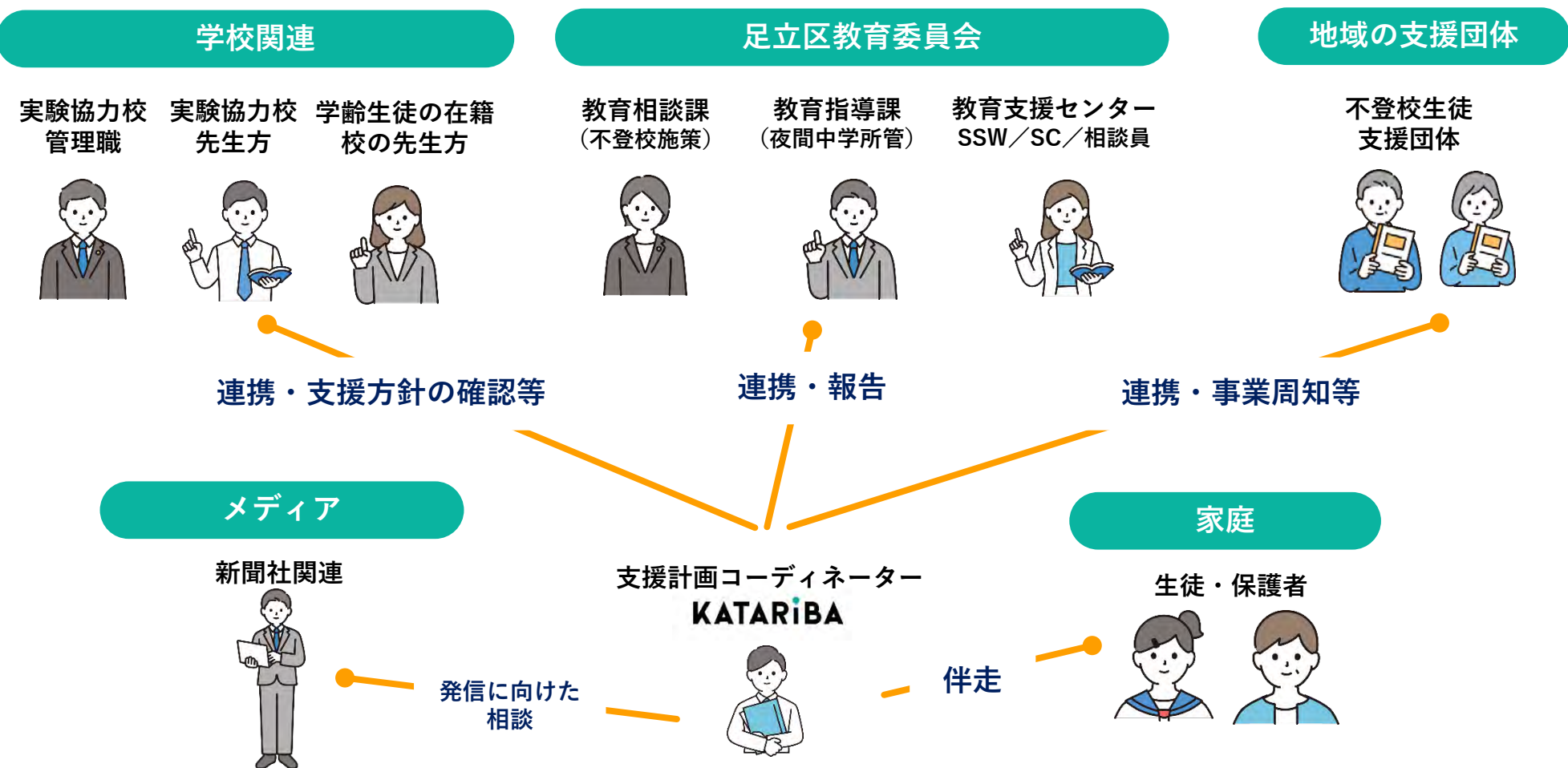


▲支援計画コーディネーターは必要があればオンラインでの学習相談も受けた。



▲支援対象者の学習状況をよく知る学習サポーターが、区内居場所施設でも理解の手助けになるように適切な教材を用いて学習を伴走した。

本事業は実施のために多様なステークホルダーへの報告相談等を要し、**調整コストが大きな事業**であることが明らかになった。環境整備期には、特に制度面に関して各機関の管理職との調整が必要だが、受け入れ開始以降は**現場の先生方との連携が必要不可欠**であり、適切なタイミングで各機関と方向性を確認していくことが重要である。



本事業の中核に据えている支援計画コーディネーターには、**生徒の夜間中学登校を実現、維持するために多様なスキルが要求**される。また、本スタッフの力量が事業推進に大きく影響する。

提案力関連

- ・ 事業提案力
- ・ プレゼンテーション力
- ・ 事業構想力

調整力関連

- ・ 先生方との連携力
- ・ スケジュール調整力
- ・ 保護者対応力
- ・ 地域連携力
- ・ 会議のファシリテート

伴走力関連

- ・ 生徒への学習伴走
- ・ 生徒の心理面を支え、成長を刺激するための対話
- ・ 授業理解力

コーディネート力

- ・ 生徒同士の橋渡し役
- ・ 生徒-先生の橋渡し役

支援計画コーディネーター
KATARiBA



その他

- ・ ICT活用スキル